

講義名	地域環境政策					授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3時限				
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード	RED281

主題と概要

この本は、地域の環境問題および地球規模の環境問題とされており、その概要や解決のための政策について学びます。国内・海外で実施されているいくつかの環境政策を概観し、政策の背景にある考え方を理解することを目的としています。

環境問題は地球の環境問題から地球規模の問題までさまざまです。環境問題に関わる人たちがしばしば口にしている「Think Globally, Act Locally」という言葉に象徴されるように、国際的な視野をもちながら環境問題に臨むことが求められます。

授業では環境問題と社会経済を結びつけた環境問題の現状を概観的に理解するとともに、国内外の環境政策の現状について解説し、考えます。あわせて、国内の多くの事例を紹介し、さまざまな環境問題への適用可能性を探ってみたいと思います。社会科学全般の視点から各環境政策を考察しますが、特に経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

到達目標

- 各受講生が、
- (1) さまざまな環境問題を理解するための基本概念を理解し、現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて広い視野から主体的に考察できるようになること、
 - (2) ローカルな環境問題の特性を理解するとともに、グローバルな環境問題についても地域への影響を理解できるようにすること、
 - (3) 環境政策の手段として経済的手法の機能と役割を理解し、地域の環境問題の改善策を提案できるようになること、
- を目指します。

提出課題

- 期中に中間レポート課題を提出してもらう予定です。また、期末に期末レポート課題を提出してもらうが、あるいは定期試験期間中に数度の試験を行います。いずれも詳細については授業内で説明します。
- 毎回の授業中にアクションペーパーを提出してもらうことを予定しています。
- 中間レポート課題は情報について調べて情報管理するということ、期末レポート課題は組み立てて新しい情報を生み出したりする（考える）ことを求める予定です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題やリアクションペーパーについては、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

- ・中間レポート課題40%、期末レポート課題あるいは期末試験60%の比率で評価します。
- ・授業内容に関する的確な質問や優れたレポート等に対しては、満点を超えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

- ・環境問題に関する情報だけでなく、新聞記事やテレビニュースを視聴するなどの基礎知識に乏しい学生向けの授業です。ecodecad（環境社会検定試験）の出題範囲の一部もカバーします。関連する科目に「都市環境学」があります（採り上げられる事柄などには一部重複する部分があります）。
- ・スマホで検索し無関係な广告の画面に押し当たることは他の学生の学習意欲を低下させるので、画面に押さえてください（集中力を維持してください）。
- ・質問の多い授業です。授業中に質問をしても構いません。授業中に質問の機会が主で、授業後に質問の機会が主です。授業中に質問の機会が多ければ、その分質問は減ることもありません。自分の意見を述べ、それを支えるための多くの情報や知識を得て理解を深め、考えるための土台や枠組みを身につけた1年生向けの授業になります。情報や知識を暗記する必要はありません。新しいことを吸収して視野を広げることに興味のない学生にとっては退屈な授業となるでしょう。

教科書

・特定の教科書は使用しません。

--	--	--	--	--

参考図書

環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（令和7年版）	環境省		
改訂10版 環境社会検定試験eco検定公式テキスト	東京商工会議所（編著）	日本能率協会マネジメントセンター	2,860 9784800592958
グラフィック環境経済学	浅沼和美・落合勝昭・落合由紀子	新世社	3,190 9784883842216

その他

- ・担当委員が作成した資料を使用して掲載をします。資料（PDFファイル）はキャンパススクロス経由で毎回配布します。
 ・参考図書に載った「環境白書」は、環境省のウェブサイトから無料でダウンロード可能です（<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>）。掲載では「令和7年版」（2025年6月頃公表予定）を主に参照する予定です。が、過去の白書を参照することもあります。その都度ウェブサイトで確認してください。
 ・その他の参考図書は必要に応じて適宜授業中に紹介します。

授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | インロダクション： 授業の進め方と環境問題の概要について
(内容) シラバスをもとに説明を行う。事前配布資料(目録)を配る。授業内容に関するイメージを持っておく。(4時間) |
| 第2回 | 環境と人間関係の歴史： 環境問題と環境政策の歴史、国際動向について
(内容) 事前配布資料にのっとる。授業内容に関するイメージを持っておく。(4時間) |
| 第3回 | 環境政策の考え方： 環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段について
(内容) 事前配布資料にのっとる。授業内容に関するイメージを持っておく。(4時間) |
| 第4回 | 環境と持続可能な発展： 持続可能な発展の考え方、発展途上国の開発、発展途国について
(内容) 事前配布資料にのっとる。授業内容に関するイメージを持っておく。(4時間) |
| 第5回 | 廃棄物管理環境： 廃棄物の現状と廃棄物問題の経緯と特徴について
(内容) 事前配布資料にのっとる。授業内容に関するイメージを持っておく。(4時間) |
| 第6回 | 循環型社会形成への取り組み： 市場活用と上・資源有効利用について
(内容) 事前配布資料にのっとる。授業内容に関するイメージを持っておく。(4時間) |
| 第7回 | エネルギー政策と環境政策 (1) エネルギー消費の現状と政策について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第8回 | エネルギー政策と環境政策 (2) 省エネルギーと経済的手段について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第9回 | 企業活動と環境政策： 環境政策と企業の環境活動と行動について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第10回 | 金融と環境政策： ESG投資と金融を活用した環境政策の漸進について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第11回 | 都市、まちづくりと環境政策 (1) 環境問題のまちづくりに関する経済的手法について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第12回 | 都市、まちづくりと環境政策 (2) 環境政策とまちづくり、グリーンシティについて
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第13回 | 生物多様性と環境政策： 生物多様性保全のための経済的手法について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第14回 | プラスチックと環境政策： 海洋プラスチックごみ問題の現状と対策について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |
| 第15回 | 環境と経済政策： 環境負荷の見える化、意識啓発の考え方について
(内容) 授業内容に関するイメージを持ってビットについて新稿、雑誌、情報できるウェブサイトなどで詳しく調べる。(3時間) |

※ 第1回～第4回は総論、第5回～第15回は各論になります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この目的の「到達目標」を達成することによって、人間と社会、自然に関する学問的問題である環境問題を、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、身近な課題を通じて理解できるようになり、さらに、地域社会で生起するさまざまな環境問題に関して、経済学と自然と改善を提議できるようにします。

これは、経済学が現代学術の学識が自然環境に際しては必ずしも資質、能力がある、人間と社会、自然に関する、これまでの学問的成果の基礎を身につけて、現代社会の問題を幅広く観点から考察し課題を提案したり、経済学を通じて、複雑化する現代社会で生起する問題や課題を、解決策を提案、たりすることによって能力が備わること

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

リアクションペーパーの提出などにクリッカー（レスポンス）を利用する予定です。

実務経験の有無及び活用

備考